

令和5年度

所 報



鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

令和5年度

所 報

鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

は じ め に

平成19年4月に設置された当センターは、令和5年度で17年目を迎えました。本年度は、サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」に加えて、1人1台端末を活用したオンラインサポートルームも開始し、誰一人取り残さない学びの場の保障へ向けての取り組みを行いました。

鳥取市が中核市として教職員研修を担い始めて6年目となりました。鳥取市の教育課題に焦点化した研修内容を企画するとともに、業務改善のための効率化も見据え、半日開催・研修形態・アンケートの工夫にも取り組み、定着してきています。「研修で学校が変わる！」を合言葉に、研修内容を学校の教育活動に生かすための「My アイデアシート」の活用促進を図り、研修と実践の往還を目指しています。また、1人1台端末を活用した事後アンケートが定着し、効率的に結果集計・分析を行うとともに、研修運営や企画の改善に生かすことができました。

GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備では、昨年度末すべての学校の普通教室へ大型提示装置の配備を完了しました。また、GIGAスクール運営支援センターに委託することで専門家による学校のニーズに応じた支援も2年目となり定着してきました。各学校でのICT活用が推進される中、令和8年度からの新規運用に向けて、次の1人1台端末の更新時期を見据えた動きが国から示されてきています。今後、さらに教育のDX化が促進されることに伴い、本市でも端末更新に向けての準備を進めてまいります。

児童生徒支援においては、不登校やいじめをはじめ、虐待や貧困など児童生徒を取り巻くさまざまな課題について、学校、保護者、関係機関との連携体制の充実に努めました。不登校対策専門委員会やいじめ防止対策推進委員会では、未然防止や早期対応の取り組みについて有識者の皆様から有意義なご意見いただき、施策の充実に努めました。また、スクールソーシャルワーカーによる福祉部局や児童相談所など関係機関と連携した支援の強化に努めました。

サポートルームでは、教科学習はじめ創作活動・ふれあい体験など、児童生徒の直接体験からの学びも大切に活動を実施しました。今後も学校や保護者との連携を図りながら、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざし、個別のニーズに応じたより一層の支援に努めてまいります。

未筆ながら、総合教育センターの今年度の運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

令和6年3月

鳥取市総合教育センター
所 長 中村 礼子

目 次

はじめに

I 鳥取市総合教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

II 令和5年度の事業概要

【研修企画係】

1	教職員研修のねらい・実績	2
2	教師力サポート研修	4
3	中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例	7
4	G I G A スクール構想事業の環境整備	9
5	若手育成	11

【児童生徒支援係】

6	鳥取市の不登校対策	13
7	鳥取市のいじめ防止対策	14
8	サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」、 オンラインサポートルームの運営・相談状況	15
9	児童生徒交流体験事業	21

I 鳥取市総合教育センターの概要

1 設置の目的

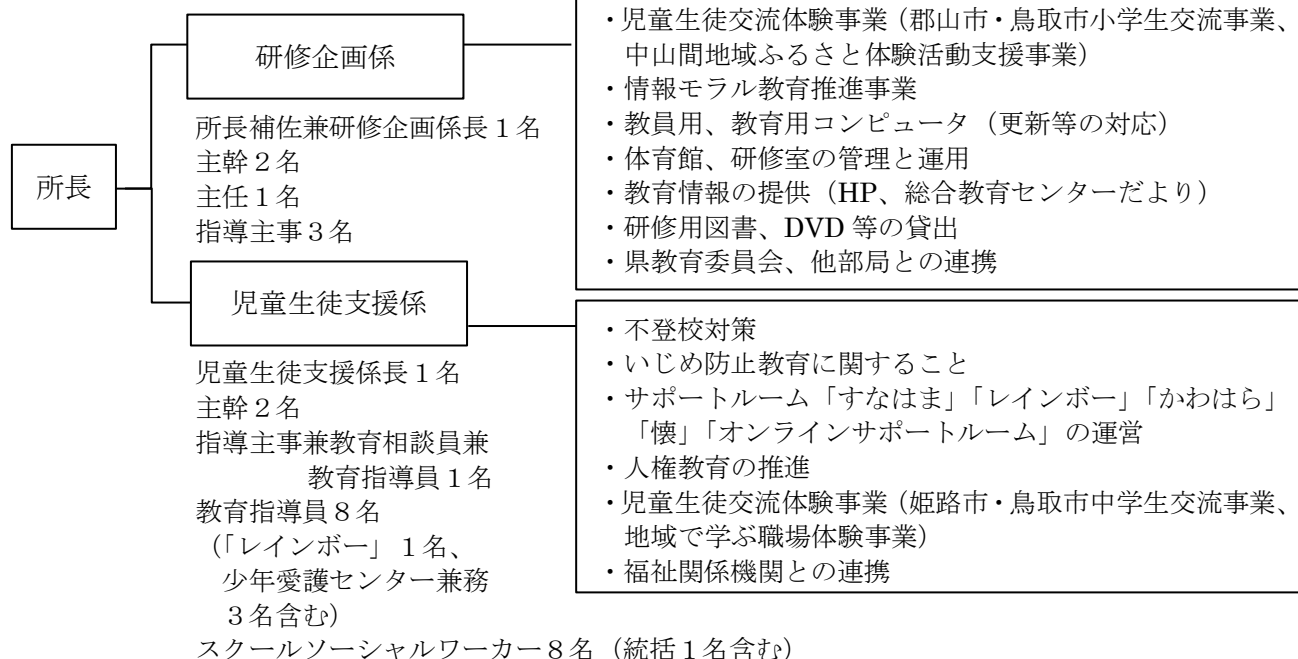
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する指導及び支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市総合教育センターの設置及び管理に関する条例」から)

2 沿革

平成19年	4月	1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置 「研修企画係」と「教育支援係」の2係体制 適応指導教室「すなはま」設置
平成19年	4月26日		鳥取市教育センター開所式
平成20年	4月	1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年	4月	1日	「特別支援教育係」を新設、「研修企画係」との2係体制
平成28年	11月11日		適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更
平成30年	5月	1日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和2年	4月	1日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和2年	4月27日		「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎1階に移設
令和3年	4月	1日	鳥取市総合教育センターに組織改編 学校教育課から「児童生徒支援係」が加わり、「研修企画係」との2係体制 サポートルーム「かわはら」開設
令和4年	4月	1日	サポートルーム「懐(ふところ)」開設
令和5年	5月	1日	「オンラインサポートルーム」開設

3 組織及び業務



Ⅱ 令和5年度の事業概要

【研修企画係】

1 教職員研修のねらい・実績

(1) ねらい

「ふるさとを思い 志をもち 社会にはばたいていく 子どものために とともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、学力向上、不登校やいじめ、問題行動等の未然防止に向け、一人一人の教育的ニーズに対応した教育の視点を基盤に児童生徒理解を深め、魅力ある学校・学級づくりに向けた研修を行う。

(2) 実績（研修体系順）

	研修名 (コラボ開催を含む)	期日	形態	内容（講義題等）	講師	人数 (人)
基本研修	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	4/25	集合	鳥取市教職員としての責務と使命の理解 初任者相互の同僚性・協働性を育むとともに、初任者同士のネットワークを構築する。	鳥取市教育委員会事務局	43名
	初任者研修②（1回目）	5/15～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	44名
	初任者研修②（2回目）	9/11～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	43名
	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	7/27	集合	4月からの実践を振り返って 事例研究、情報共有、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	42名
	初任者研修④	10/27	集合	授業改善の理解と意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	38名
	中堅教諭等資質向上研修① 6年目研修①	5/12	集合	教育現場におけるコーチングの意義の理解と実践 での活用力の向上	ナティブコミュニケーション教育研究所 所長 佐藤 敬子	57名
	中堅教諭等資質向上研修② 16年目研修①	6/5	遠隔 (各校)	I C Tの日常的活用による授業力の向上	鳥取県教育センター 教育D X推進課	35名
	中堅教諭等資質向上研修③ 6年目研修②	7/28	遠隔 (各校)	自己有用感と自治的な集団づくり	愛媛大学 教授 城戸 茂	61名
	中堅教諭等資質向上研修④	8/22	集合	教育者として必要な人間力の向上	前鳥取市教育委員 山脇 彰子	19名
	中堅教諭等資質向上研修⑤ 16年目研修②	10/19	遠隔 (各校)	各教科等の中で進めるキャリア教育	筑波大学 教授 藤田 晃之	35名
	中堅教諭等資質向上研修⑥ 6年目研修③	12/4	集合	めざす子ども像実現に向けたカリキュラム・マネジメント	大阪教育大学 教授 田村 知子	61名
職務研修	校長研修①	5/18	遠隔 (各校)	災害から生き抜く力を育む防災教育	岩手県立図書館 館長 森本 晋也	54名
	校長研修②	7/14	集合	企業経営に学ぶ学校組織マネジメント	ヤマタホールディングス(株) 代表取締役 山田 雄作	52名
	副校長・教頭研修①	5/25	集合	『想定外を想定』するために	鳴門教育大学 特任教授 阪根 健二	64名
	副校長・教頭研修②	8/29	遠隔 (各校)	働きがいがあり、かつ、働きやすい学校に ～副校長・教頭だからできることを考える、実践する～	教育研究家・合同会社 ライフ&ワーク代表 妹尾 昌俊	62名
	授業づくり研修①	5/25	遠隔 (各校)	校内研修を通しての校内OJTの在り方	兵庫教育大学 特任教授 浅野良一	56名

	研修名 (コラボ開催を含む)	期日		内容(講義題等)	講師	人数 (人)
職務研修	授業づくり研修②	11/24	集合	「学び合い」のある算数・数学の学習についての理解	東京家政大学 教授 石田 淳一	52名
	道徳教育推進教師研修	10/13	遠隔 (各校)	これからの道徳教育において大切にしたいこと	立命館大学大学院 教授 荒木 寿友	53名
	情報化推進リーダー研修	5/9	遠隔 (各校)	デジタル・シティズンシップ教育推進に向けた校内体制の構築	国際大学 GLOCOM 准教授 豊福 晋平	55名
	学校司書・司書教諭研修	6/22	遠隔 (会場校)	学習・情報センターとしての学校図書館の充実と、学校司書・司書教諭が果たすべき役割	鳥取県立図書館 支援協力課	98名
	講師研修①	7/27	遠隔 (各校)	教師としての在り方、心構え・児童生徒理解、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	32名
	講師研修②(養護) 講師研修②(中) 講師研修②(小)	12/7 12/11 12/14	集合	先輩教諭の授業づくりや学級経営・保健室経営に学ぶ	先輩教諭 先輩養護教諭	12名 12名 12名
	特別支援教育主任研修①	6/29	集合	特別支援教育における校内外の体制づくりと、連絡調整の実際 子どもの主体性を伸ばす指導・支援	文部科学省 特別支援教育調査官 加藤 典子	53名
	特別支援学級担任研修①	6/2	遠隔 (各校)	障がいへの理解と自立に向けた支援の在り方 障がい種に応じた指導・支援の実際	宮城学院女子大学 教授 梅田 真理	59名
	特別支援教育主任研修② 特別支援学級担任研修②	7/25	遠隔 (各校)	実態把握を基にした自立活動の在り方と、個別の支援計画とのつながり 多様な教育的ニーズにこたえる学習支援の在り方と、教育課程の編成方法	鳥取県教育委員会 東部教育局指導主事	105名
	特別支援教育支援員研修	7/7	遠隔 (会場校)	児童生徒の実態把握の在り方とその具体的方法 支援に対する基本的な考え方と具体的方法	鳥取こども学園希望館 スーパーバイザー 花川 治広	61名
	人権教育主任研修①	6/13	遠隔 (会場校)	県・市の人権教育の方針・施策の理解と各校における推進	鳥取県教育委員会事務局 人権教育課 鳥取市教育委員会事務局	53名
	教育相談コーディネーター研修①	5/30	遠隔 (各校)	教育相談コーディネーターの役割と校内体制づくり スクリーニングシステムを通じた支援のあり方	各関係機関 鳥取市教育委員会事務局	55名
	児童生徒相談員研修①	4/20	集合	児童生徒相談員の職務と求められる役割	鳥取市教育委員会事務局	12名
	人権教育主任研修② 教育相談コーディネーター研修② 児童生徒相談員研修②	10/26	遠隔 (各校)	二次障害予防の手立ての在り方 自立支援を意図した教育課程編成、校内支援体制のコーディネート、学級担任と連携した自立支援	特別支援教育ネット 代表 小栗 正幸	98名
	外国語教育小中連携研修	11/14	遠隔 (会場校)	小中で連携した授業づくり 集中連携して取り組む言語活動の実際	文部科学省 教科調査官 入之内 昌徳	54名
	外国語・外国語活動支援員研修	6/20	集合	小学校外国語・外国語活動支援員の役割 担任と連携した授業づくり	鳥取県教育委員会事務局 小中学校教課指導主事	12名
	特別活動主任研修 学級づくり研修	10/3	集合	子どもが自分のよさを発揮できる温かい学級づくり	元鳥取市教育委員会事務局次長 豊福 聡 鳥取市教育委員会事務局	77名
ICT活用指導方向上研修	ICTを活用した授業づくり研修	12/1	遠隔 (会場校)	1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的学び Google Workspaceの機能を活かした「魅力」と「徹底」の授業展開	茨城大学 准教授 小林 祐紀	54名
	ICT活用研修(基礎編)		オンデマンド	iMovieの使い方	鳥取市教育委員会事務局	オンデマンド
	ICT活用研修(応用編)		オンデマンド	GIGAスクール「最適化」から「新たな価値の創出」へ ・ICT機器活用の自律化へ ・Jamboardの今後とその先	鳥取市教育委員会事務局	オンデマンド
その他の研修	教職員人権教育研修	7/18	遠隔 (各校)	鳥取市の学校人権教育の推進について	鳥取市教育委員会事務局	47名
	特別支援教育研修(応用)		オンデマンド	教育的ニーズの理解 一貫した教育支援の充実	鳥取市教育委員会事務局	オンデマンド
	幼保小中連携研修	8/21	遠隔 (会場校)	子どもの発達段階における遊び・学びの連続性と豊かな人間関係作り 接続部分に焦点を当てた幼保連携、幼保小連携、小中連携、小中連携の横と縦のつながりを生かした柔軟な接続	鳥取県教育委員会事務局 東部教育局 鳥取短期大学 准教授 上島 逸子	110名

2 教師力サポート研修

(1) 教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校の課題に即したワークショップ型の出前研修や指導助言、校内研修等を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績

	期 日	派 遣 先 等	
	内 容		
1	4月19日（水）	宝木小学校	校内研修（ICT活用）
	○ICT活用について		
2	4月21日（金）	美保小学校	校内研修（特別支援教育）
	○学校における医療的ケアについて		
3	5月16日（火）	逢坂小学校	校内研修（ICT活用）
	○生活指導について		
4	5月17日（水）	東郷小学校	校内研修（ICT活用）
	○ICT活用について		
5	5月22日（月）	日進小学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別な配慮が必要な児童の指導支援について		
6	5月23日（火）	美保南小学校	東部小教研（特別活動）
	○特別活動の指導の工夫		
7	5月26日（金）	若葉台小学校	校内研修（ICT活用）
	○ICT活用について		
8	5月31日（水）	宝木小学校	校内研修（学習指導）
	○指導と評価の一体化について		
9	5月31日（水）	河原中学校	校内研修（ICT活用）
	○ICT活用について		
10	6月14日（水）	修立小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導の工夫		
11	6月15日（木）	宝木小学校	校内研修（ICT活用）
	○ICT活用について		
12	6月15日（木）	美保小学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別な配慮が必要な児童の指導支援について		
13	6月19日（月）	明治小学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別な配慮が必要な児童の指導支援について		
14	6月21日（水）	東郷小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導について		
15	6月21日（水）	河原第一小学校	校内授業研究会（学習指導）
	○算数科の授業づくりについて		
16	6月22日（木）	明治小学校	PTA対象研修（生徒指導）
	○生徒指導について		
17	6月28日（水）	用瀬小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動について		

	期 日	派 遣 先 等	
	内 容		
18	7 月 4 日（火）	浜坂小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動について		
19	7 月 5 日（水）	国府東小学校	校内授業研究会（算数）
	○算数の授業づくりについて		
20	7 月 5 日（水）	富桑小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動における指導の工夫		
21	7 月 1 8 日（火）	鹿野学園	校内授業研究会（道徳）
	○道徳科の授業の工夫		
22	7 月 1 9 日（水）	世紀小学校	校内授業研究会（国語）
	○国語科の授業づくり		
23	7 月 2 4 日（月）	世紀小学校	校内研修（総合的な学習の時間）
	○総合的な学習の時間の指導の工夫		
24	8 月 2 日（水）	久松小学校	保小連携研修（保小連携）
	○保小連携のあり方について		
25	8 月 3 日（木）	久松小学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別支援学級の学級経営		
26	8 月 4 日（金）	面影小学校	校内研修（ICT 活用）
	○ICT 活用の実際		
27	8 月 8 日（火）	修立小学校	校内研修（ICT 活用）
	○ICT 活用の実際		
28	8 月 2 3 日（水）	河原第一小学校	校内研修（学級経営）
	○学級経営における指導のあり方		
29	8 月 2 4 日（木）	湖東中学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別な配慮が必要な児童の指導支援について		
30	8 月 3 0 日（水）	美保南小学校	校内研修（特別支援教育）
	○学びの場の選択に関する考え方について		
31	9 月 7 日（木）	逢坂小学校	PTA 研修（生徒指導）
	○生徒指導の実際		
32	9 月 2 0 日（水）	用瀬小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動における指導の工夫		
33	9 月 2 0 日（水）	世紀小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導の実際		
34	9 月 2 0 日（水）	城北小学校	校内研修（特別支援教育）
	○特別支援教育における自立活動の実際		
35	1 0 月 1 9 日（木）	岩倉小学校	校内研修（情報モラル）
	○メディアリテラシーの実際		
36	1 0 月 2 4 日（火）	久松小学校	校内研修（特別支援教育）
	○通級指導教室における自立活動		

	期 日	派 遣 先 等	
	内 容		
37	1 0 月 2 5 日（水）	白兔会館	東部小教研（生徒指導）
	○生徒指導のあり方		
38	1 0 月 2 5 日（水）	河原第一小学校	東部小教研（特別活動）
	○特別活動の指導の実際について		
39	1 1 月 1 日（水）	明治小学校	校内研修（特別支援教育）
	○学びの場の選択に関する考え方について		
40	1 1 月 2 8 日（火）	富桑小学校	中学校区研修会（特別活動）
	○特別活動の指導の工夫		
42	1 1 月 2 9 日（水）	世紀小学校	中学校区研修会（特別活動）
	○特別活動の指導の工夫		
43	1 2 月 4 日（月）	若葉台小学校	校内研修（ICT 教育）
	○ICT 教育の実際（個別対応）		
44	1 2 月 6 日（水）	用瀬小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導について		
45	1 2 月 1 2 日（火）	修立小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導について		
46	1 2 月 1 3 日（水）	世紀小学校	校内授業研究会（特別活動）
	○特別活動の指導の工夫		
47	1 2 月 2 0 日（水）	福部未来学園	東部小教研（英語科）
	○英語科における指導の工夫		
48	1 月 2 3 日（火）	城北小学校	校内授業研究会 特別活動
	○特別活動の実際について		
49	2 月 1 日（木）	東中学校	校内研修（ICT 教育）
	○ICT 教育の実際		
50	2 月 1 9 日（月）	福部未来学園	中教振英語部会研修会
	○英語科における ICT の活用		

（２） 成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

○本年度は特別活動に関する研修依頼が増加した。これは鳥取市がめざす「自発的・自治的な活動をとらして自治力のある集団」「自立した児童生徒の育成に係る学校の取組」に対する一助となったと考える。あわせて、特別支援に関する支援依頼も増えており、より個に応じた指導について理解を深めるきっかけを提供できたと考える。

▲昨年度に比べ、サポート研修の開催回数は増加したが、学校数は減っている。県実施の訪問型研修を活用している学校もあるが、研修と学校をつなぐ視点から今後も利用促進に向け、広報に努めていく。

◇学力向上、生徒指導、特別活動、ICT活用等、多岐にわたる依頼内容に応じて講師を選定し、対象者の課題に即した研修を行い、効果をあげる。

3 中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例

(1) ねらい

- ①保育体験 : 保育園・幼稚園・認定こども園における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、教育活動に反映させる。
- ②地域貢献体験 : 地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。
- ③指導助言体験 : 授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

(2) 実績

対象者：19名（18校）

※小学校15名（15校）、中学校4名（3校）

①キャリア体験

体験先（学校・園）		人数（人）	内容	時期
保育園 等	久松保育園 富桑保育園 城北保育園 美保保育園 白ゆり保育園 豊実保育園 よねさと保育園 わかば台こども園 みやこ保育園 河原あゆっこ園 浜村保育園 湖山保育園 いなば幼稚園・保育園 さくら幼稚園・さくら保育園	18	○園児との交流 ・朝の登園指導 ・創作活動 ・読み聞かせ ・自由遊び ・水遊び ・給食指導 ○園長、保育士との協議、情報交換	7～ 12月
	幼稚園	1		

<中堅教諭の声>

- 園児がしっかりと話を聞き、話し合う様子をみて、保育で身につけた力を小学校につなげていく必要があると感じた。
- 園では保育計画をもとにきめ細かい支援を行っていることを知った。園児が主体的に集会活動を行っていることに驚いた。
- 他の職員と保育体験を行うことで、小学校で行われている指導について振り返る話し合いができた。
- 保育士の細やかな支援は、自身の指導の在り方を振り返るきっかけになった。
- 絵を描く活動の見学を行った。保育士が園児一人一人に描きたい思いを引き出しながら園児のやる気を引き出していたことが印象的だった。これまで絵を描く技能について指導をすることが多く、描く対象物にどのような思いを持っているのかという視点は持てなかったので、今後の自分の指導にいかしていきたい。
- 保育士とそれぞれの取組について情報共有を行った。その中でそれぞれの立場でできることは何かなど、今後の連携について考えるきっかけとなった。自校に戻り、1年担任や教務主任と架け橋期のカリキュラムについて話し合った。
- 園では保育で使用する教具を掲示し、園児が学びたいときに学べるような仕組みがあった。低学年団の先生と情報共有をし、小学校でも何かできないか話し合うことができた。

②地域貢献体験

体験・活動先 (公民館・場所等)		人数 (人)	内容	時期
公民館活動	久松地区公民館 富桑地区公民館 稲葉山地区公民館 城北地区公民館 美保地区公民館 明德地区公民館 明治地区公民館 米里地区公民館 若葉台地区公民館 浜村地区公民館 美保南地区公民館 賀露地区公民館 面影地区公民館	14	・小学生向けものづくり体験教室の企画・運営 ・防災倉庫整備と防災用品の確認 ・防災デイキャンプに参加（給水活動、バケツリレー、テント、マンホールトイレ設営、防災クイズ等） ・青少年育成連合協議会のイベント参加・会場準備等 ・夏祭りのボランティア活動(事前打ち合わせ、会場整備) ・ウォークラリーのボランティア活動（打ち合わせ、会場整理） ・鳥取砂丘コナン空港ギャラリーの企画運営 ・スポーツ教室運営補助 ・「次世代育成事業」のボランティア活動・地域の小学生のリーダー育成を目指した研修会のサポート ・通学路クリーンアップキャンペーン ・海岸清掃活動 ・地域食堂での食事作り	8～ 11月
	体育会	1	・イベント運営補助	8～ 10月
	実行委員会	3	・地域の納涼祭の企画・運営 ・地域のウォークラリー参加 ・イベント運営補助	
	地域の施設	1	・鳥取砂丘コナン空港イベント運営補助	
	＜中堅教諭の声＞			
	○学校に防災倉庫を設置したこともあり、地域の防災の会に参加した。防災倉庫の物品整理を行いながら地域の防災活動について話を聞いた。自校の防災教育にいかしていきたいと思った。			
	○地域の健康活動に参加した。地域の方と触れ合うことで、地域コミュニティとしての学校の役割に対する期待を感じることができた。これまで以上に地域との連携について考えるきっかけとなった。			
	○公民館主催のリーダー研修に参加した。まちづくりについて話し合う様子を見学することで自分自身もまちづくりについて考えることができた。			
	○地域の納涼祭に参加した。保護者だけでなく地域の方から話を聞くことで、学校教育に対する期待を強く持っていることを認識した。			
	○地区を巡るツアーに参加した。今まで「地域のよさ」という言葉を授業等で使っていたが、自身が感じる経験ができたのがよかった。今後の授業等でいかしていきたい。			

③指導助言体験

指導助言対象	人数（人）	内容	時期
初任研	5	初任研での指導助言、授業づくりへの協力	10～11月
校内授業研	14	校内授業研究会での指導助言	6～11月
＜中堅教諭の声＞ ○授業者の思いを聞き、どこにこだわりを持って指導したいのかを把握した上で資料等を使いながらアドバイスをした。自分の考えもあるが、授業者のこだわりに対して事前に勉強することで、自分の指導の幅も広げることができたと思う。 ○初任者の研究授業において、指導案作成時からかわることで、初任者に対してどのようなアドバイスをするとよいのか考え、自身の授業について分析することにもつながった。 ○指導案作成の際に、学年主任もまきこみ、複数の教員で意見を出し合いながら授業づくりを行った。教材研究の方法や発問の精選など、いろいろな視点で話し合うことで、授業者だけでなく自分自身もよい学びの場となった。			

（３）成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

- 保育体験では、体験活動や職員の方との情報交換等により互いの取組について理解し、学校教育と幼児教育とのつながりについて考えたり、自校の教育活動を振り返ったりすることで自身の視野を広げるよいきっかけとなった。
- ▲地域貢献体験においては、内容をイメージすることが難しく、企画することに困難さを感じる中堅教諭もいた。
- ◇中堅教諭に向けたオリエンテーションにおいて、それぞれの体験研修の様子を紹介し、より主体的に企画体験できるよう支援していく。

4 G I G Aスクール構想事業の環境整備

(1) ねらい

G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C T環境を積極的に整備し、子どもたちの可能性を広げ、社会を生き抜く力を育む。また、校内ネットワーク環境（無線L A N・アクセスポイント）を整備し、児童生徒1人1台端末の更なる活用を図る。

<鳥取市G I G Aスクール構想の目的>

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育I C T環境を実現する。
- I C Tを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

(2) 実績

① G I G Aスクール運営支援センター

- 1人1台端末など学校のI C T運用を円滑に行うため、運用サポート、ヘルプデスクの運用を実施

② 鳥取市G I G Aスクール推進委員会の開催

- 「鳥取市学校教育情報化推進計画」に則って、今後のI C T活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することで、鳥取市G I G Aスクール構想をより多角的かつ計画的に推進することができた。
(令和5年度 3回実施)

③ 湖東中学校校舎耐震工事に伴うアクセスポイント整備

- 湖東中学校校舎耐震工事に伴い、工事済校舎及びⅡ期工事仮設校舎へアクセスポイントを整備し、校内通信ネットワーク環境を維持した。

④ モバイルルータ活用

- 体育館や校外学習に活用できるよう市立小・中・義務教育学校等にモバイルルータを計70台配布し活用している。

⑤ プログラミング教材の購入

- 中学校でのプログラミング授業及び小学校でのプログラミング出前授業で活用するため、プログラミングロボットを購入し、授業の充実に努めた。

⑥ W i - F i によるインターネット接続環境整備費助成金

○W i - F i によるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、W i - F i によるインターネット接続環境を整備した家庭に対し上限1万円を助成した。

対象：今年度小学1年生または今年度市外より転入してきた家庭など、令和4年度以前に本助成金制度の対象にならなかった家庭
(令和5年度 申請実績 7件)

⑦ クラウド型セキュリティサービスの活用によるセキュリティ強化

○学校 I C T 端末の高速通信ネットワーク (S I N E T) への接続を行っており、今後の端末利用の多様性を踏まえ、危険なプログラム等が含まれるW e b サイトの閲覧を未然に防止するため、令和3年度よりクラウド型セキュリティサービスを導入しセキュリティ対策を講じた。

⑧ 授業目的公衆送信補償金

○授業の過程で他人の著作物を用いて作成した教材を I C T 機器を活用して送信するなどしたときに個別に許諾を得なくてもいいように費用補償を行った。

(3) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○G I G A スクール運営支援センターの運営を業務委託し、学校に整備している1人1台端末をはじめとする I C T 機器のトラブル対応の窓口を一本化し、学校の負担軽減を図った。
また、各学校において1人1台端末を積極的に活用できるよう支援 (ヘルプデスクによる活用方法の助言等) を行った。

○鳥取市G I G A スクール推進委員会を開催し、本市の今後の I C T 活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することができた。

▲ I C T 端末のさらなる活用が図られるよう、引き続き、運用支援及び環境整備が必要である。

▲一人一台端末等の I C T 機器の経年劣化等による故障件数が年々増加している。

▲児童生徒一人一台端末の更新に向け、次期端末の機種等仕様の方針を検討する必要がある。

令和6年度に向けて

◇G I G A スクール運営支援センターを、タブレット端末を含む I C T 機器に関する各種相談の総合窓口として引き続き運営し、学校の負担軽減と支援を図る。

◇児童生徒一人一台端末について、リース期間終了を迎える令和7年度での更新実施に向けて、機種や仕様等の検討を進める。

◇湖東中学校校舎の耐震化工事及び各学校教室増等に伴うネットワークの追加整備を行う。

◇W i - F i によるインターネット接続環境のない家庭への支援として環境整備に対する助成を行う。

◇鳥取市G I G A スクール推進委員会にて、本市の今後の I C T 活用推進及び環境整備を引き続き検討していく。

5 若手育成

○魅力化事業

(1) ねらい

鳥取の魅力発見と仲間づくりを目的に、休日の自主研修会の企画・運営等を行うことで、県外出身新卒初任者の安定した生活基盤の確立を支援し、安心して日々の教育活動に臨めるようにする。

<支援体制>

鳥取県退職校長会鳥取支部および気高支部との若手教員支援に関する覚書により、退職校長等が地域の応援団（若手教員サポーター）として、特に県外出身新卒初任者の生活上のアドバイスや、見守り、声かけ等を行う。

(2) 実績

期 日	場 所	内 容
4月4日（火）	鳥取市役所本庁舎	・県外出身新卒初任者と担当若手教員サポーターとの顔合わせ（対面式終了後）
4月25日（火）	総合教育センター（体育館）	・県外出身新卒初任者と担当若手教員サポーターとの顔合わせ（鳥取市初任者研修①終了後）
5月13日（土）	総合教育センター（研修室1）	・茶話会（荒天のため砂丘散策を中止）
5月27日（土）	鳥取砂丘	・鳥取砂丘散策、夕日観望
6月17日（土）	鳥取市内	・とうふちくわづくり体験
10月14日（土）	さじアストロパーク	・郷土の自然体験 プラネタリウム体験、天体観測会、星座解説
12月2日（土）	総合教育センター（調理室）	・料理教室（2年目・3年目の先輩先生と合同実施）

(3) 成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

○年度初めの早い時期に複数回県外出身新卒初任者と若手サポーターとの顔合わせの会を実施することで、相談できる相手がいるという安心感や、同じ環境で赴任した者同士の連帯感を築くことができた。

○若手教員サポーターと連携しながら休日の自主研修会を実施した。市内の名所散策や郷土の自然や文化との触れ合いを通して、県外出身新卒初任者に鳥取の魅力を体感してもらうことができた。

○学校・若手教員サポーター・事務局が連携を密にして、慣れない土地での生活に対するアドバイスや、日常的な言葉かけ等、初任者の抱える不安や悩みに対してタイムリーな支援を行うことができた。

▲自主研修会の参加者数が想定よりも少なく、初任者同士の横のつながりが広がりにくかった。

◇休日の自主研修会の参加者を増やし、初任者の横のつながりを築くきっかけとなるよう、実施時期や内容を再検討したい。



○講師研修

(1) ねらい

- ・一人一人が教師としての心構えを持ち、更なる教育実践を積もうとする意欲を高める。
- ・先輩教師の授業参観・講話を通して、児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや学級経営（保健教育と保健室経営）について学び、今後の実践に活かす。

(2) 実績

期日	対象	会場	研修形態	講師等	内 容	人数
7 ／ 27	者、 養護助教諭 経験3年以下の	会場校	遠隔 研修	総合教育センター 所長 鳥取市教育委員会 事務局 指導主事	・教師としての在り方、心構え ・演習・協議 「児童生徒理解、自己の課題の 共有と課題解決について」	32 名
12 ／ 7	養護助教諭	倉田小学校	集合 研修	倉田小学校 田中 和湖 養護教諭	・実践発表・講話「養護教諭の職務 ～保健教育を中心として～」 ・危機対応に関する演習	9 名
12 ／ 11	後期課程講師 中学校・義務教育学校	総合教育センター	集合 研修	湖東中学校 久岡 一輝 教諭	・授業視聴：2年特別の教科 道徳 主題名：よりよく生きる喜び 教材名：「本当の私」 ・講義「授業づくりと学級経営について」	12 名
12 ／ 14	小学校前期課程講師 小学校・義務教育学校	総合教育センター	集合 研修	美保小学校 上野 真奈 教諭	・授業視聴：6年国語 単元名：「表現の工夫をとらえて 読み、それをいかして書こう」 ・講義「ほめる授業と学級経営」	12 名

(3) 成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

○事前課題として、授業動画の視聴に加え、Jamboard への記入をしたことで、受講者自身が課題意識を持つことができ、主体的に受講することができた。

○グループ別演習では、講師が実際に体験した事例をもとに、身近な危機対応について熱心に話し合う様子が見られた。

▲外部研修の機会が少ない講師に対しては、研修内容の更なる充実が望まれる。

◇受講者の振り返りに「このような研修の機会を待っていた」、「もっと早くこのような内容を学びたかった」と書かれており、講師研修の持ち方について、時期や回数、内容などを今後検討していくことも必要である。



6 鳥取市の不登校対策

<目標>

多様性を受け止め、共に学び育つ集団づくり・組織づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

<取組の柱>

不登校が生じないような学校づくり <未然防止>

○豊かななかかわりによる「自己有用感」の育成

【学校】

- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
- ・個々の多様性を受け止める学習指導と協働的な授業づくりの推進

【市教委】

- ・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
- ・学力向上推進事業

【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握

【学校】

- ・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価
- ・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援
- ・SOS の出し方に関する教育の充実(例:ソーシャルスキルトレーニング、面談週間、ICT を活用した心身の健康状態の把握、SC による一部の学年等の全員面接や授業等)

【市教委】

- ・教職員研修の充実(不登校傾向の児童生徒の早期発見及び支援ニーズの適切な把握)
教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援
→スクリーニングシステムの活用、スクリーニング会議のあり方、アセスメントの方法、関係機関との連携のあり方等
- 人権教育主任研修→インターネット上の人権等
- ・中学校区及び校内研修への支援

【地域社会】

- ・地域からの情報収集

不登校やその傾向にある児童生徒への 効果的な支援

○個々の児童生徒の状況に応じた支援

【学校】

- ・スクリーニングシート・アセスメントシートを活用した組織的・計画的・有効的な支援
- ・SC 及び SSW、LD 等専門員についての児童生徒や保護者への周知

【市教委】

- ・SSW の巡回訪問
- ・アドバイザーによる不登校支援事業
- ・関係諸機関との連携
- ・SC 配置事業(県教委)の活用

【地域社会】

- ・地域人材による見守り、家庭支援

○教育機会の確保

【学校】

- ・学級以外の学びの場(相談室、サポート教室等)の活用
- ・ICT を活用した個別学習支援

【市教委】

- ・サポートルーム(すなはま・レインボー・かわはら・懐)の運営及び拡充(学習機会の保障等のための ICT 活用)
- ・児童生徒相談員及び特別支援教育支援員の職務の整理と配置
- ・自宅学習支援事業(県事業の活用)
- ・フリースクール通級児童生徒への支援
(鳥取市フリースクール利用料助成事業)

【地域社会】

- ・フリースクール等との連携

7 鳥取市のいじめ防止対策

<目標>

いじめを許さない、集団の力で問題解決していける仲間づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

<取組の柱>

いじめが生じないような学校づくり <未然防止>

○児童生徒の自発的・自治的な活動による 「絆づくり」の推進

【学校】

- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
- ・道徳や学級活動を中心とした生命や人権を大切にする学習の充実

【市教委】

- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
→小・中学生 Smile サミットの開催
- ・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
- ・全国いじめ問題子供サミットへの参加

【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

【学校】

- ・児童生徒アンケート等による実態把握
- ・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価
- ・SOS の出し方に関する教育の充実(例:ソーシャルスキルトレーニング、面談週間、ICTを活用した心身の健康状態の把握、SCによる一部の学年等の全員面談や授業等)

【市教委】

- ・教職員研修の充実(いじめ防止等、児童生徒の実態把握に向けての教職員研修の充実
人権教育主任研修 → インターネット上の人権等教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援
→スクリーニングシステムの活用、スクリーニング会議のあり方、アセスメントの方法、関係諸機関との連携のあり方等
 - ・情報モラル教育推進事業
 - ・中学校区及び校内研修への支援
- ###### 【地域社会】
- ・地域・家庭からの情報提供

いじめ解消にむけた取組 <早期発見・早期対応>

○個々の児童生徒の状況に応じた指導・支援

【学校】

- ・児童生徒アンケート等をもとにした組織的・計画的・有効的な支援
- ・いじめの積極的認知と指導・支援
- ・いじめ事案の情報共有と引き継ぎの徹底
- ・SC 及び SSW、LD 等専門員についての児童生徒や保護者への周知

【市教委】

- ・専門諸機関との連携
- ・SC配置事業(県教委)の活用
- ・SSWの巡回訪問

【地域社会】

- ・専門機関による支援
- ・地域人材による見守り

○組織対応の充実

【学校】

- ・学校いじめ防止基本方針の内容の修正及び周知
- ・校内いじめ防止対策委員会の開催による組織的対応
- ・校内研修の充実

【市教委】

- ・小・中学校校長会、教頭会、特別活動部会、生徒指導部会との連携と情報伝達
 - ・教職員研修の充実
採用2年目の者を対象にした教職員人権教育研修の実施
→鳥取市の人権教育の取組やいじめの認知・組織対応のあり方
 - ・学校への指導助言
 - ・「月例報告」必須報告項目の確認(オンデマンド配信による周知・徹底)
 - ・県教育委員会との連携
- ###### 【地域社会】
- ・地域・家庭での研修
 - ・学校運営協議会での情報共有及び意見交換

8 サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」 オンラインサポートルームの運営・相談状況

(1) 見学・体験・入級利用状況

※令和6年3月19日現在

① 見学・体験・入級児童生徒数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小1	義務前期1	0	0	0	1	1	1	2	1	1	1	1	1
小2	義務前期2	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
小3	義務前期3	0	1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4
小4	義務前期4	0	0	0	0	1	0	3	4	2	2	2	2
小5	義務前期5	0	0	2	2	2	3	6	6	6	6	5	6
小6	義務前期6	2	4	4	3	3	4	3	4	4	4	4	3
中1	義務後期1	0	0	1	2	2	2	4	2	5	4	4	4
中2	義務後期2	2	6	5	6	7	9	9	9	8	8	9	9
中3	義務後期3	3	5	6	7	7	7	6	6	5	5	5	5
合計		7	16	21	24	26	30	37	36	35	35	36	36

② 見学・体験・入級児童生徒の延べ人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小1	義務前期1	0	0	0	0	1	19	17	13	12	13	17	10	102
小2	義務前期2	0	0	3	2	4	9	7	3	10	10	11	9	68
小3	義務前期3	0	1	12	10	2	25	34	25	28	23	39	26	225
小4	義務前期4	0	0	1	0	0	0	3	7	6	5	4	4	30
小5	義務前期5	0	0	9	3	3	15	33	30	19	15	20	17	164
小6	義務前期6	4	18	29	23	6	39	32	26	24	25	27	14	267
中1	義務後期1	0	0	2	3	2	9	8	9	17	21	26	16	113
中2	義務後期2	6	22	30	25	15	47	62	67	41	21	27	22	385
中3	義務後期3	12	46	36	27	12	50	61	37	43	25	42	15	406
合計		22	87	122	93	45	213	257	217	200	158	213	133	1,760

※「懐」を含む。

③ 見学・体験・入級児童生徒の1日当たりの利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
開室日(日/月)	9	17	21	13	6	19	20	18	16	14	19	13	185
1日平均(人/日)	2.44	5.12	5.81	7.15	7.50	11.21	12.85	12.06	12.50	11.29	11.21	10.23	9.51

※見学・体験・入級児童生徒数に「オンラインサポートルーム」は含まない。

(2) 令和5年度入級・在級状況

① 在級児童生徒数 (人)

	小学校・義務前期						中学校・義務後期			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	1	0	2	0	3	3	1	7	2	19
レインボー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かわはら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンラインサポートルーム	0	0	0	1	1	3	1	3	2	11
合計	1	0	2	1	4	6	2	10	4	30

※サポートルーム「懐」の利用は期間限定のため、体験生のみ。

② 在級児童生徒の状況 (人)

		小学校 義務前期	中学校 義務後期	サポートルームの活用状況		小学校 義務前期	中学校 義務後期
学校復帰	教室	0	1	週に3～5回程度	午前中心	0	0
	相談室	0	0		午後中心	0	0
学校と併用	教室	2	4		1日	4	3
	相談室	0	3	週に1～2回程度	午前中心	2	5
	放課後登校等	4	1		午後中心	0	0
サポートルームのみ		3	1		1日	3	2
その他		0	0	学校復帰 他		0	0
合計		9	10	合計		9	10

※「レインボー」は火・木・金曜日の午前中のみ相談に応じて開室。「かわはら」は相談に応じて午前中のみ開室。

※「オンラインサポートルーム」は含まない。

＜オンラインサポートルームについて＞

令和5年度より、市内の小・中・義務教育学校の児童生徒のうち、学校、フリースクール等に通っておらず主に自宅で過ごし、十分な学習等が行えていない児童生徒を対象に開設した。

e ラーニング教材を活用し、総合教育センターの教育支援員が児童生徒の学習状況を確認したり面談をしたりして支援をしている。

(3) 活動内容

 サポートルーム「すなはま」一週間の予定表

		月	火	水	木	金
午前	9:30～9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める				
	9:45～10:00	朝の会・ラジオ体操				
	10:00～10:50 ①	自主学習	ふれあい活動		自主学習	
	10:50～11:00	休けい		休けい		
	11:00～11:50 ②	自主学習			自主学習	11:00～11:20 自主学習
						11:25～11:35 そうじ
						11:40～11:50 読み聞かせ
11:50～12:00	すななくまタイム			すななくまタイム	ふいかえり	
午後	12:00～13:00	昼食（お弁当）・休けい				12:00 帰宅
午後	13:00～14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ （体育館）	
	14:10～14:30	自由活動・ふいかえり・帰宅				

* 金曜日の午後はチャレンジ登校(個別に設定) * 毎月最終金曜日は閉室

① 学 習

- ・学習する部屋の場所やパーテーションの配置を工夫し、通級生が集中して学習に取り組める環境づくりに努めた。
- ・必要に応じて予定をホワイトボードに書くなどし、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対しては、それぞれに合った教材の提案も行った。
- ・9月以降、週に2回程度、児童生徒の英語と数学の学習支援を行うため、基礎学力定着支援事業を活用した。
- ・学習内容は、個別に教育指導員と相談して学習計画を立てた。
- ・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。



② 学び合い活動

- ・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に学び合い活動の時間を設定した。
- ・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
- ・9月と11月に合わせて4回、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を行った。
- ・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組んだ。



③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
- ・体育館を走ったり、ストレッチやボール等を使って連続パスの練習をしたりして体ほぐしをした後、バドミントン、卓球等を中心に運動を行った。
- ・スポーツを通して体を動かしたり、人と触れ合ったりする楽しさを感じることができた。



④ ふれあい活動

- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域で年間計画に基づいて実施した。
- ・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。



野外炊事



コクヨ工場見学



交流活動（福部未来学園幼稚園）

【令和５年度 ふれあい活動一覧表】

期日	内 容	場 所	期日	内 容	場 所
5/16	調理実習① トーキングゲーム	総合教育センター	10/24	野外炊事と外遊び	岩美町大坂
5/23	久松山登山 (雨天：近隣施設見学)	鳥取市東町	11/7	交流活動（福部保育園） モルック	鳥取市福部町
5/30	真教寺公園見学	鳥取市戎町	11/21	学びの発表会 (保護者参観日)	総合教育センター
6/6	梨の袋かけ体験 鳥取砂丘散策	鳥取市福部町	11/28	ニュースポーツ	総合教育センター
6/13	調理実習②	総合教育センター	12/5	鳥取大学科学実験観察	鳥取市湖山町
6/20	鳥取県埋蔵文化センター、 宇部神社見学	鳥取市国府町	12/12	県立博物館アート出前と 室内ゲーム	総合教育センター
7/4	リンピアいなば、 バードスタジアム見学	鳥取市河原町 鳥取市蔵田	12/19	調理実習③ 缶バッジづくり	総合教育センター
7/12	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路大谷	1/16	書初めとジュニア県展見学	総合教育センター 鳥取市東町
7/18	ニュースポーツ	総合教育センター	1/23	わらべ館見学	鳥取市西町
9/5	和紙折り紙 プレゼント作品制作	総合教育センター	1/30	国際交流	総合教育センター
9/12	第一給食センターと 鳥取市役所見学	鳥取市行徳 鳥取市幸町	2/6	お茶体験と室内ゲーム	鳥取市元魚町 総合教育センター
9/19	梨狩り、鳥取砂丘こどもの国	鳥取市福部町 岩美町大坂	2/13	木でものづくりと 木のおもちゃで遊ぼう	総合教育センター
10/3	交流活動 (なないろデイサービス)	鳥取市二階町	2/20	中央郵便局、新日本海新聞社 見学	鳥取市東品治町 鳥取市富安
10/17	コクヨ見学と青島散策	鳥取市湖山町 鳥取市高住	2/27	調理実習④、高砂屋見学	総合教育センター 鳥取市大工町
					計 28回

(４) 保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

- ・保護者との個別懇談を入級時と年度末に行った。
- ・学校との教育相談を入級時に行った。
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
- ・「すなはまだより」（学校用・保護者用）を配付し、翌月の活動に見通しがもてるようにした。
- ・「来室状況報告」（学校用・保護者用）を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

② 支援会議

- ・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

③ 参観日

令和5年11月21日（火）

午前の部 10:00～12:00 午後の部 12:50～13:30

- ・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、児童生徒が主体となり、進行をしながらこれまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに披露した。
- ・4月から11月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。



④ 保護者研修会

令和5年11月21日（火）13:30～14:30

『こどもたちの笑顔のために～寄りそう大人にできること～』

講師 鳥取県いじめ・不登校総合対策センター

課長補佐兼教育相談員 今西 聡子 氏

- ・サポートルーム「すなはま」に入級または体験している児童生徒の保護者だけではなく、その他の保護者や学校の教員を対象に実施した。
- ・参加者からは、「不登校の子どもの心の様子を知り、親としてどういう関わりをすればよいかという視点を与えていただいた。」「親として子どもへの寄り添い方を見つめ直すことができた。」といった感想があった。



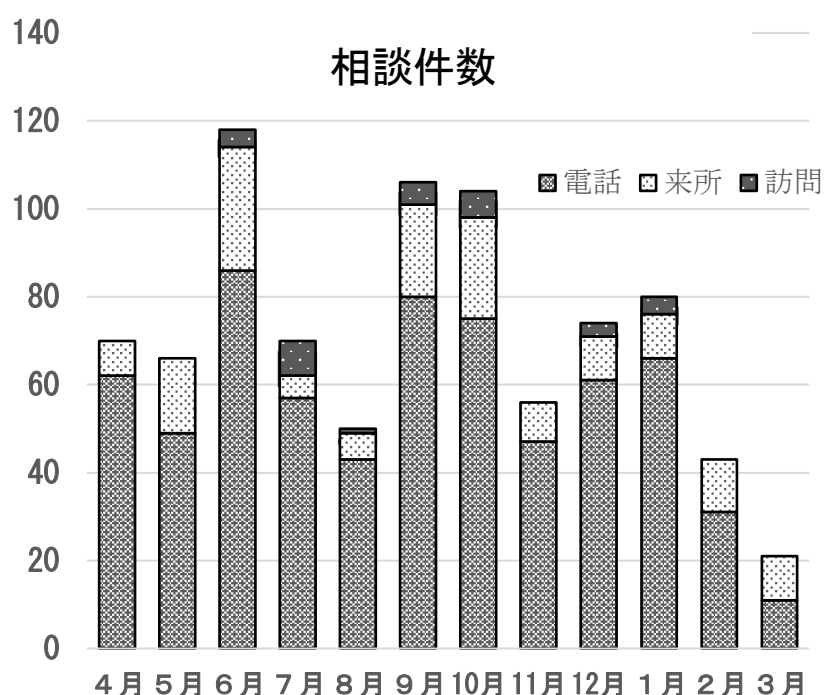
⑤ 個人ファイルの作成・活用

児童生徒の様子を記録するだけではなく、がんばりや変容、学校や家庭からの情報についても記録に残し、支援に役立てた。記録をデータ化することによって支援にあたる複数の職員が日々様子を確認しやすくなり、個々の状況把握や声かけ、学校との情報共有等に活かすことができた。

（４）サポートルームに関する相談状況

①相談件数（件）

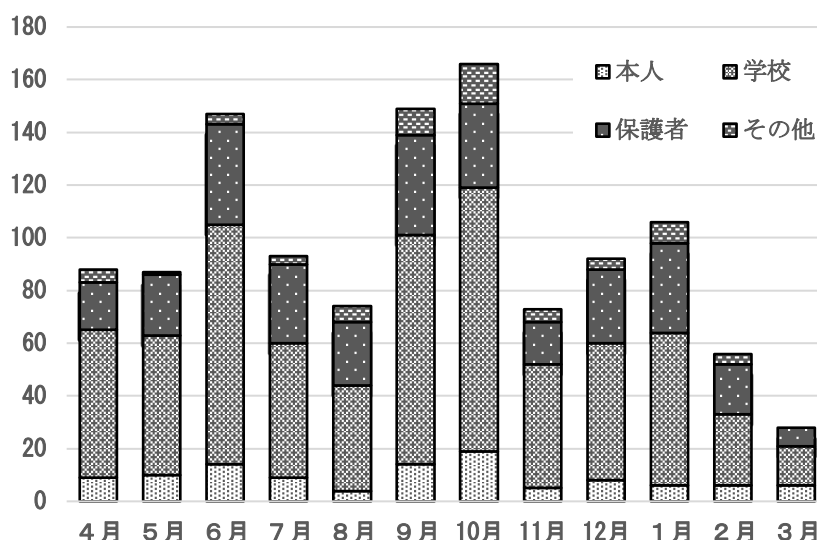
	電話	来所	訪問	全体
4月	62	8	0	70
5月	49	17	0	66
6月	86	28	4	118
7月	57	5	8	70
8月	43	6	1	50
9月	80	21	5	106
10月	75	23	6	104
11月	47	9	0	56
12月	61	10	3	74
1月	66	10	4	80
2月	31	12	0	43
3月	11	10	0	21
合計	668	159	31	858



②相談者の内訳（回）

	本人	学校	保護者	その他	合計
4月	9	56	18	5	88
5月	10	53	23	1	87
6月	14	91	38	4	147
7月	9	51	30	3	93
8月	4	40	24	6	74
9月	14	87	38	10	149
10月	19	100	32	15	166
11月	5	47	16	5	73
12月	8	52	28	4	92
1月	6	58	34	8	106
2月	6	27	19	4	56
3月	6	15	7	0	28
合計	110	677	307	65	1159

相談者の内訳



(5) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題 ◇: 展望)

- 個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人・保護者とサポートルームとで適宜相談し、本人のニーズに合わせて通級の頻度や時間、学校へ行く回数を増やせるようにしている。来年度の学校復帰に向けて、計画的に学校へ行く回数や滞在時間を増やしたり、年度途中で学校復帰をしたり、サポートルームを主な居場所として活用したりするなど、サポートルームの活用の仕方は個々の支援状況に合わせてさまざまであった。
- 学校にほとんど登校できず、主に自宅で過ごしていたが、すなはまに通うことによって、自宅を出たり様々な年代の友達と関わったりすることができるようになった児童生徒がいた。
- 教職員がすなはまに来所し、本人の活動の様子を参観したり、保護者と面談したりして、その後の学校復帰に向けた具体的な提案をする機会にするなど、支援につなげた例があった。また、支援会議にすなはま担当者が参加したり、保護者面談等にSSWや専門機関が関わったりして、連携しながら支援にあたることができた。
- 学校に登校できず、サポートルームやフリースクール等にも通っていなかった児童生徒が、オンラインサポートルームの学習をとおして、月に一度の教育支援員と面談を行ったり、目標を意識して学習に取り組んだりすることができた。
- ▲児童生徒のニーズや実態が多様化しており、体験や入級生も増加していることから、一人ひとりに合った支援が行き届きにくくなっている部分もある。サポートルームしか利用していない児童生徒の支援について、適宜学校との情報共有や具体的な見通しを立て、本人や保護者とも共有しながら支援していくことが重要である。
- ▲サポートルームに関する相談件数が大幅に増加した。サポートルームのニーズが高まっている半面、サポートルーム利用者が増加したことによって、少人数利用のメリットが感じられず、利用に至らなかったり、利用を控えたりする児童生徒がいた。
- ▲本年度開設したオンラインサポートルームは、インターネットを介しての支援であるため、双方向のやりとりが難しい面がある。月に1回行う面談を通して関係づくりをしながら、児童生徒が立てた目標が達成できるような支援の在り方について工夫が必要である。

令和6年度に向けて

- ◇一人一人のニーズや実態に即した支援や指導がタイムリーに行えるよう、在籍校や保護者との連携をより密に行う。
- ◇多様な学習機会の場として、また進路や学習に対して不安をもつ児童生徒、保護者が多いことから、オンラインサポートルームの拡充や学習支援員の活用等、学習支援の充実を図る。

9 児童生徒交流体験事業

(1) 事業概要

<姫路市・鳥取市中学生合宿交歓会>

① 目的

姉妹都市である姫路市と鳥取市の中学生がオンライン交流を行うことにより、お互いの市についての理解を深めるとともに、親睦を図りながら交流の輪を広げることで、姉妹都市の絆を深めることを目的とする。

② 実績

○日時

令和5年8月4日(金)
午後1時から3時30分

○会場

鳥取市総合教育センター

○参加者

・生徒 34名(姫路市17名 鳥取市17名)

※鳥取市の参加者は、各市立中・義務教育学校後期課程から1名

・指導者 13名(姫路市8名 鳥取市5名)

◎参加者合計 47名

○交流方法・内容

- ・Google Meet を活用したオンラインでの交流
- ・両市の伝統や産業、食文化の紹介と姉妹都市交流活性化に向けた意見交換 等



<中山間地域ふるさと体験活動支援事業>

① 目的

鳥取市内の中山間地域(農山村)で生活体験活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとの自然や文化の素晴らしさや人の温かさにつれることにより、児童がふるさとのよさを実感できるようにする。

② 活動の種類

- 佐治町での農村暮らし体験を主とした宿泊体験学習及び文化や伝統についての体験活動
- 鳥取市中山間地域における、上記に類する活動

③ 実績

○市立小・義務教育学校前期課程12校13団体が実施

○主な体験活動・・・魚のつかみ取り体験、佐治谷話体験、プラネタリウム体験、林業体験、座禅体験、田舎暮らし体験(民泊) 等



<郡山市・鳥取市小学生交流事業>

① 目的

- 姉妹都市である郡山市と鳥取市の小学生が交流を行うことで、両市の小学生相互の親睦を図る。
- 交流をとおして、他の都市や学校を知り、自分たちの郷土や学校を見直すことで、ふるさとに誇りをもつ。
- 東日本大震災被災地である郡山市に暮らす小学生と交流することで、郡山市応援プロジェクトでつないだ絆の太さを実感するとともに、ふるさと日本の復興に向けての思いや願いを一層育む。

② 実績

○鹿野学園

交流校：郡山市立東芳小学校

日 時：令和5年9月29日（金） 午前10時40分から午前11時40分

内 容：・市や町、学校についてスライドを見せながら発表
・相互に発表に関するクイズの出題、感想交流と質問コーナー

○江山学園

交流校：郡山市立明健小学校

日 時：令和5年11月7日（火） 午前10時30分から12時45分

内 容：・地域や学校についての紹介をスライドにまとめて発表
・学習成果の交流
明健小学校：英語による地域・学校に関する紹介、道案内ゲーム
江山学園：ICTを活用したイラストやスクラッチで作ったゲームの紹介

○美保南小学校

交流校：郡山市立桑野小学校

日 時：令和5年12月8日（金） 午前10時30分から午前11時30分

内 容：・市や町、学校についてスライドを見せながら発表
・感想交流

<地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）事業>

① 目的

中学校区及び義務教育学校区を基盤とした地域社会の中で、生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を実施することによって、地域社会の自立した構成員として共に生きる心や感謝の心を育む。あわせて、望ましい勤労観や職業観を身に付け、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。また、鳥取市教育ビジョンめざす子ども像「ふるさとを思い 志をもつ子」の育成に向けて、保護者や地域の人々に「地域が一体となって生徒を育む」という意識の高揚を図ることで、学校・家庭・地域の協力体制を強め、すべての大人が子どもの育ちと学びを支える教育システムの創造と充実につなげていく。

② 実績

○対象者

鳥取市立中学校及び義務教育学校後期課程17校の特定学年の生徒全員

○実施内容

職場体験活動：13校

代替活動：4校

（2）成果と課題（○：成果 ▲：課題）

- 姉妹都市交流に参加した生徒の振り返りにもあるように、給食献立づくりやイベントの企画についての意見交換を通して、その意義やふるさと鳥取のよさを再確認する機会となった。
- 中山間地ふるさと体験活動を通して、座学では味わえない達成感を感じ児童の自信につながった。佐治民泊では、民泊家庭の温かさに触れ感謝の気持ちを伝えようとしていた。
- 職場体験活動は多くの生徒が活動を「充実していた」と捉えており、地域を活性化させるために必要なことや自分の将来についても考える機会となった。また事後アンケートからは期間中家族で会話する時間が増加していることがうかがえ、職業に関する会話の促進といった面でも成果が見られる。
- ▲中山間地域ふるさと体験活動では台風の影響で、日程や内容を変更せざるを得ない学校が4校あった。実施時期の検討が必要。
- ▲オンラインによる姉妹都市交流の好事例やノウハウを次年度の担当者や担当校に伝え、さらなる工夫のもとで交流を充実させていきたい。

令和５年度 所報第１７号

令和６年３月発行

発行所 鳥取市総合教育センター

〒680-0053 鳥取市寺町１５０番地

TEL (0857) 36-6060

FAX (0857) 26-3878

E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp

URL <https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/index.html>

